令和８年度第１回分野別分科会

スポーツ

① 分野の定義

◀ 現行計画（令和４～８年度）の定義

一定のルールが定められた競技スポーツだけでなく、ウォーキングやレクリエーションなどの気軽に楽しむことのできる活動等もスポーツととらえます。

区民の年齢、性別、障害の有無や体力等に左右されることなく、だれもが健康づくりのほか、仲間同士の交流やストレス解消等につながるスポーツに取り組むことで、いきいきと自分らしい生活を送っていくことを目指します。

▼

▷ 定義の再確認・検討の視点

令和７年に改正のスポーツ基本法では、新たにスポーツを通じて「**集う**」「**つながる**」機会を持ち、「生きがいを持って幸福を享受」「豊かさを実感できる社会の実現を図る」ことを謳っています。そして、スポーツの**社会課題の解決、期待の高まりとともに**、これの実現につながる取組として、**スポーツと文化芸術等の他分野との連携**が明記されました。

定義の改定にあたっては、これらの新たな位置づけについて検討する必要があります。

② 現状と課題

②-1 現行計画（R4～R8）指標の達成状況

基本方針	指標名	R 元年度の実績値	R7 年度の実績値	現行計画の目標値
①	スポーツ実施率【スポーツをする】	54.9%	**58.3%**	60.0%
①	スポーツ観戦率【スポーツを見る（直接観戦）】	23.7%	**23.7%**	30.0%
①	スポーツボランティア参加率【スポーツを支える】	10.7%	**12.0%**	20.0%
②	環境整備（「いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境」）への満足度	36.3%	**49.9%**	45.0%
③	事業参加者の満足度	—	**100.0%**	80.0%

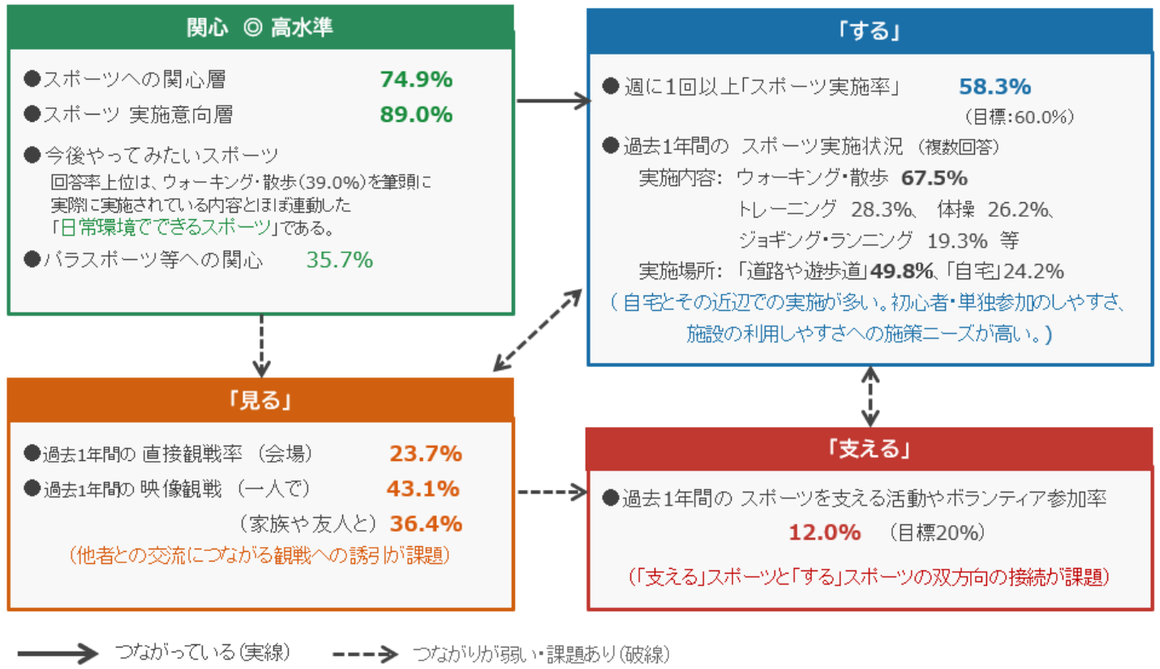
②-2 現行計画期間（R4～R8）の主な成果

・スポーツ実施率は目標の 60%に対して 58.3％。未就学児童を対象とした外遊び事業や、初心者向けスポーツ教室、スポーツ交流ひろば、Bunkyo Sports Park などで数多くの参加者が得られ、スポーツ実施層の裾野を広げている。

・ユニバーサルスポーツの普及活動を積極的に実施した。インクルーシブスポーツ推進事業補助により、スポーツ団体に対する支援を実施しており、誰もがスポーツに親しめる環境づくりを進めている。

・「みんなのスポーツひろば」（旧スポ・レクひろば）等にスポーツボランティアが参加し、参加者との交流が促進されている。

②-3 現状と課題の構造



実施率・実施意向ともに、一人で行う日常環境でできるスポーツ（ウォーキング、トレーニング等）の回答率が高い。「する」スポーツの主な内容は、「見る」スポーツにおいて一般的な競技スポーツではなく、「する」と「見る」との間につながりが生まれにくい側面がある。

会場での観戦等の「見る」よりも、一人での映像観戦が多く、「見る」を通じて「する」側との接触・交流機会が生まれにくい側面がある。「支える」スポーツの推進には、「する」スポーツとの双方向の接続が必要である。

②-4 課題のまとめ

① **初心者やひとりでも、スポーツや運動に取り組みやすいきっかけづくり**

「初心者が取り組みやすくする」「ひとりでも取り組みやすくする」の数値が高く、参画の障壁を下げる「きっかけづくり」が課題。関心や適性に応じて誰もがスポーツに取り組める機会やスポーツを通じて多様な主体が交流する機会を生み出すことが重要である。

② **「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツや運動をできる環境づくりのさらなる促進**

環境整備への満足度は目標達成しているが、屋外活動が主流という実態である。

③ **スポーツを見る・支える機会の創出と多様な参加機会の提供**

映像観戦を含む「見る」手段が多様化する中、「見る」人同士や、「見る」人・「する」人・「支える」人の交流など、スポーツの多様な参加機会を拡充していくことが課題。